

# 取扱説明書

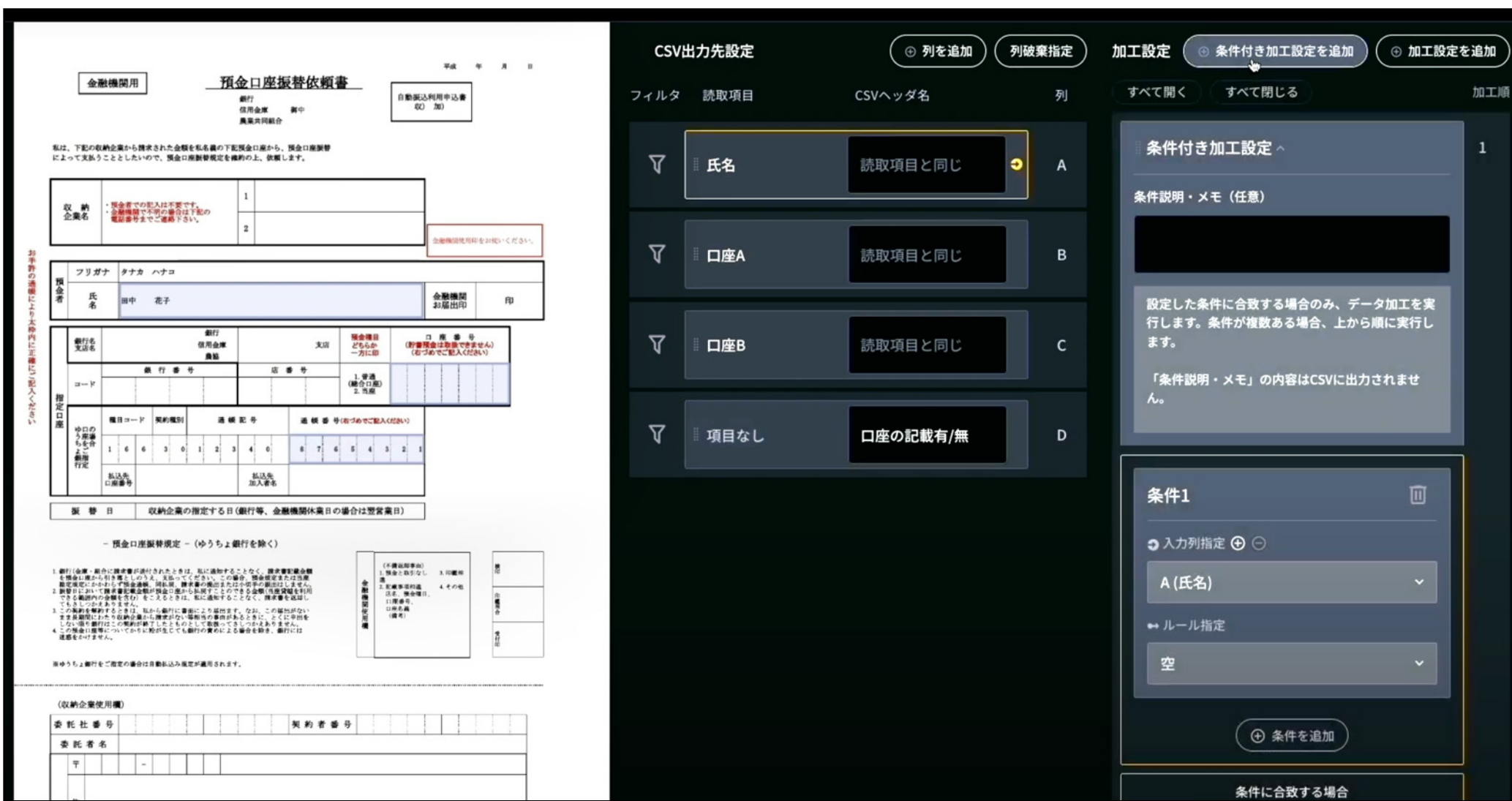
ワークフロー作成とは、どんな帳票のどの項目をOCRするのか、OCR結果の補正、目視チェックの有無・回数、文字列の置換などのデータ加工、出力するCSVの設定など、一連の処理内容を設定することです。設定して名前を付けて保存したものが個々のワークフローとなります。ユニット作成とは、作成したワークフローにOCRしたいファイル(画像やPDF)をアップロードすることです。アップロードするとユニットが作成されます。また、ファイルのアップロードと同時にOCRが始まります。

読取チェックとは、OCR結果を人が目視でチェックして、もし間違いがある場合は修正入力することです。OCRの精度が非常に高い場合は読取チェックをしないワークフローにすることもできます。また、2名や3名でダブル、トリプルチェック体制とするワークフローも可能です。CSVダウンロードボタンをクリックすると、OCR後の読取チェックとデータ加工処理を経たCSVがダウンロードされます。データ加工設定の概要OCRで読み取った文字列をそのままCSVに出力するだけでなく、特定の処理ルールに基づいて変換させてCSV出力することもできます。

## 1.データ加工設定の流れ

データ加工設定の全体の流れは、大きく分けて3つのステップとなります。処理内容は各データ加工設定によって異なりますので、使用する前に「データ加工設定の詳細」を確認してから設定を行ってください。加工設定の順番を変える際には、各加工設定をドラッグアンドドロップしてください。フィルタアイコンをクリックすると、フィルタをかけられた列を使ったデータ加工設定を一覧で確認できます。

〈Step.1〉 口座Aと口座Bのいずれかに入力がある場合、CSV出力の際、口座の記載有無の列に「あり」と出力し、口座Aと口座Bの両方に入力がない場合は、口座の記載有無の列に「なし」と出力する設定を行っています。データ加工設定画面の真ん中のブロックにある「列を追加」のボタンをク



操作画面(イメージ画像)

リックし、「口座の記載有/無」の列を追加します。

〈Step.2〉 右上にある「条件付き加工設定を追加」のボタンをクリックします。口座Aと口座Bのいずれか入力がある場合の条件付き加工設定を行います。

「入力列指定」の項目にB列の「口座A」を指定し、「ルール指定」の項目に「空ではない」を指定します。「条件を追加」のボタンをクリックし、「または」のタブを選択します。

〈Step.3〉 「入力列指定」の項目にC列の「口座B」を指定します。「ルール指定」の項目に「空ではない」を指定し、「加工設定を追加」のボタンをクリックします。

〈Step.4〉 「加工設定」のプルダウンメニューから「文字列挿入」を選択し、「出力列」に口座の記載有無のD列を指定します。文字列の項目に「有」と入力します。

〈Step.5〉 口座Aと口座Bの両方に入力がない場合の条件付き加工設定を行います。「入力列指定」の項目にB列の「口座A」を指定します。「ルール指定」の項目に「空」を指定します。

「条件を追加」のボタンをクリックし、「かつ」のタブを選択します。「入力列指定」の項目にC列の「口座B」を指定します。「ルール指定」の項目に「空」を指定し、「加工設定を追加」のボタンをクリックします。加工設定」のプルダウンメニューから「文字列挿入」を選択し、「出力列」に口座の記載